

登録番号 第 24239 号

Dr. オリゼ®リディア®箱粒剤

- 特長：
- 殺菌成分の「プロベナゾール」が植物体の防御機構を活性化し、いもち病に対して高い防除効果を示します。
 - 殺虫成分「フルピリミン」は、昆虫の神経伝達系に作用し、麻痺を引き起こして殺虫効果を発揮します。既存の殺虫剤とは作用が異なります。
 - ミツバチを始め、ウズキコモリグモ、ヤゴなどの有用昆虫に影響はほとんどありません。

有効成分	フルピリミン・・・2.0% プロベナゾール（化管法1種）・・・24.0%	包装	1 kg×12、3 kg×8、9 kg×1
性状	類白色細粒	有効年限	4年
毒性	普通物*	危険物	-

※普通物：「毒物及び劇物取締法」（厚生労働省）に基づく、特定毒物、毒物、劇物の指定を受けない物質を示す。

【適用病害虫及び使用方法】

2023年4月1日付内容

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
湛水直播 水稻	いもち病 イネノオムシ イネズグウムシ	1kg/10a	は種時	1回	は種同時施 薬機を用い て土中施用 する。	3回以内 (は種時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (は種時までの処理 は1回以内)
稲(箱育 苗)	いもち病 白葉枯病 イネノオムシ イネズグウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植7日 前～移植 当日	1回 1回 1回	育苗箱の上 から均一に 散布する。	3回以内 (移植時までの処理 は1回以内、本田で は2回以内)	2回以内 (移植時までの処理 は1回以内)
	コメイト イネノオムシ イネノオムシ フタバネコガ ウカ類 イネノオムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植3日 前～移植 当日				
	いもち病 白葉枯病 イネノオムシ イネズグウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ コメイト イネノオムシ イネノオムシ フタバネコガ ウカ類 イネノオムシ	高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50～100g)	移植3日 前～移植 当日				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フルピリミンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネノメイシ イネズグナムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

使用上の注意事項

- (1) は種時に使用する場合は、直播栽培に使用し、専用のは種同時施薬機を用いること。
- (2) 移植時に使用する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ① 専用の移植同時施薬機を用い、側条施用すること。
 - ② 移植後は湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - ③ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- (3) 育苗箱へ処理する場合は、次の注意事項を守ること。
 - ① 育苗箱の苗の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、十分灌水すること。
 - ② 稲苗の葉がぬれていると、薬剤が付着して薬害を生じる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
 - ③ 軟弱徒長苗、むれ苗などでは薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
 - ④ 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害が生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
 - ⑤ 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
 - ⑥ 移植後、低温が続き、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
 - ⑦ 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
 - ⑧ 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理を行うこと。
 - ⑨ 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- (4) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (5) 容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (6) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- (1) 誤食などのないよう注意すること。
- (2) 使用の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (3) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (4) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- (5) 夏期高温時の使用をさけること。

水産動植物に有毒な農薬については、その旨

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 使用後は水管理に注意すること。

引火し、爆発し、又は皮膚を害する等の危険のある農薬については、その旨

通常の使用方法ではその該当がない。

貯蔵上の注意事項

直射日光をさけ、食品と区別して、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。